

町政懇談会（奥川地区区長会）会議録

1. 開催日時

平成24年3月3日（土）午前10時から

2. 対象地区・団体

奥川地区自治区長連絡協議会

3. 代表者名

会長 玉木達雄（参加者数：21名）

4. 開催会場

ロータスイン

5. 町出席者

町長 伊藤 勝、建設水道課長 酒井誠明、企画情報課長 杉原徳夫、同課課長補佐 渡部英樹

6. 町政方針説明

震災から間もなく1年を迎えるが、県や各町村では3月11日に復興に向けてのイベントが行われる。14時46分を「ふくしま復興のとき」とし、西会津は全町民で黙祷を捧げ、犠牲者の冥福を祈る。復興に向けてはまだ多くの課題が山積している。大きな2つは放射能問題と風評被害である。町内の放射線量は県内でも最も低く、農産物への影響も心配ない。しかし、福島県全体での評価をうけてしまうため、米の売れ行きに影響が出ている。会津の米であることを強調して差別化を図るべくブランド化したり、山菜等については、県より導入される放射能測定器を用いて検査をし、安全性を確認したうえで昨年同様各都市へPRし、風評被害を克服したい。

今年も2月に豪雪対策本部を設置したが、残念なことに奥川地区で除雪中に亡くなった方がいる。今後高齢者のみの世帯が増え、自分たちだけでの除雪はますます厳しくなっていくので、町としても対策を取りたい。平成24年度には新郷地区にも新たに集落支援員を配置する。自治区長と連携し、町と集落との架け橋になるような活動に取り組んでもらう。

地域の経済活性化を図るため、今月群岡中の調理室に加工研修所を設け、そこで研修を受けた後農産物を加工し、よりっせ等で販売する。この1ヵ所だけでなく、各地区にもその地区にあった方法で加工、販売等すすめていく。働けるうちに働き、今後ますます不安になる年金問題の支えとなるよう、新たな産業の芽となればと思う。

平成24年度に向けての計画であるが、先の震災により国の予算や財政状況の見直しを図らねばならない。原発周辺ほどの大きな見直しはないが、平成24年度は次の3つを重点目標に掲げる。

一つは経済の活性化である。経済の活性化なくして町政は成り立たない。来年度はいろいろな事業を新規に立ち上げる予定である。農地・水・環境の事業と中山間地域等直接支払事業の継続、また奥川のライスセンターに復興の予算を使い新規にもみすり機や米の選別機械を導入したい。企業に対しては若者を採用した場合、10万円の支援補助金を支給し、若者の定着を図りたい。また、弥平四郎に携帯電話用の鉄塔を建て、通話エリアの拡大を図る。去年は奥川マラソンを開催するか判断に迷ったが、開催して良かったと思う。今年には奥川マラソンと一緒に飯豊山の登山30周年のイベントも考えており、活気のある地域づくりができればと思う。

次は教育の振興と人材の育成である。若者だけでなく、UターンやIターンしてきた方々を育成・活用し、積極的に町づくりに参加してもらいたい。

これまでインフルエンザワクチンについては65歳以上の方を対象に無料化してきたが、子どもをもつお母さん方からの要望を受け、23年度途中から妊婦と0歳から18歳未満まで、1,000円のみ負担していただき、残りは町で補助する新たな取り組みを始めた。また、中学生までは医療費を無料にしている。小学校は統合したが、今後も放課後子どもクラブはぜひ継続いただきたい。

最後は健康づくり、安全・安心な町づくりである。これまでは「100歳への挑戦」というスローガンを掲げてきたが、高齢者を対象にした取り組みであった。今後は「健康が一番」に変え、子どもからお年寄りまでを対象に、食育、1人1運動、検診受診率100%を目指し、病気の早期発見・治療に努めることができるように取り組んでいく。

災害に強く安全・安心な町づくりのため、現在災害マップを作成しているが、まだまだ把握できていない箇所が多い。一昨年、奥川地区で防災訓練を行った。今後も各地域で実施し、それぞれの地域に根ざした対策の講じ方を知ることが大切である。忘れた頃にやってくるのが災害であるが、最近は忘れないうちにまたやってくる。しっかりとした対応をしていきたい。

7. 事前協議事項

① 西会津縦断道路の整備について

(自治区長) 縦貫道早期完成に向けて、各路線の改修の進捗状況を教えていただきたい。

(建設水道課長) まず、奥川・新郷線の国道459号線と接する交差点については、急カーブ・急勾配が多く危険であるため改良して欲しい旨を、以前より県地域課題検討会議の場で喜多方建設事務所に対し、要望しているが未だ実施には至っていない。今後も重点的に改良の旨、要望していく。

樟山バイパスの着工については、県の改築事業で採択されており、平成23年度は用地測量を実施した。平成24年度は用地買収の他、笹川に架かる橋の設計を行う予定である。

野沢・柴崎線の改修については、阿賀側に架かる橋屋橋が大部分を占めている。この部分を県の代行工事で実施して欲しい旨、要望活動を実施中である。採択に向け全力をつくす所存である。橋以外では、戸中地区柴崎側に工事途中の箇所があるが、平成23年度の繰越工事として春先から実施する予定である。戸中・橋屋間の道路改良については平成24年度実施予定であるが、遺跡の発掘場所であるため、発掘が終了次第工事に取りかかる。また、昨年橋立2号橋が完成したが、下の古い橋については平成24年度に取り壊す予定である。

② 国道459号線の整備について

(自治区長) 各路線の改修の進捗状況を教えて欲しい。

(建設水道課長) 杉山地内においては、杉山から徳沢に架かる奥川橋の改良であるが、こちらも県地域課題検討会議にて要望しているが、未だ実施されていない。凍結対策として、舗装部分にグルーピングという細かい線を入れているが、今後も重要課題として引き続き要望していく。

小綱木、越戸間では、国道459号線にあるスイッチバックするかなのような急カーブ、急勾配でバスや大型車が通行できないほどの箇所がある。この部分に関しても県に対し改良の要望を出しているが、地滑りの地域であるため着工が難しいとのことである。今後も強く要望していく。

真ヶ沢集落入口の案内標識と街灯設置についてであるが、現在国道459号線と県道の交差点に大型の案内標識が設置されている。今回の要望である小綱木側の設置については現在の設置箇所から200～300m程しか離れていないため、難しいと思われる。街灯の設置についてはバイパス工事の際、集落より設置の要望をいただいていたので県に調査を依頼したところ、設置後の管理については集落にお任せいただけるかとの問題提起をいただいた。この件も含め、今後実施に向けて検討したい。

8. 意見交換

(意見) 真ヶ沢集落の街灯設置であるが、冬期間は雪の壁で交差点部分の見通しが悪く危険なうえ、バイパスを走っていても標識が確認できず素通りしてしまう。集落だけの問題ではないと考えるが、管理費の負担については集落で検討しなければならない

事項なのか。

(町長) 街灯設置後の管理者については、設置場所と目的によってどこで管理するのか変わってくる。集落のためだけの設置でなく、公共性の高い理由であれば町で対応する。後ほど具体的な協議を行い、管理者を決定したい。

(意見) 杉山地内で先月事故が発生した。こちらも改良を行ってほしい。

(町長) ご指摘頂いた杉山以外にも、徳沢入口や杉山の途中など、まだまだ危険な箇所は多い。早急に対策を検討したい。

(意見) 4月からデマンドバスの運行が始まるが、先の説明会だけでは納得していない町民も多いと思われる。デマンドバスによる経費の削減は本当に可能なのか。

昨年実施した地域づくり活動に対し、50万円の助成があったが、今年の活動に対しても助成はあるのか。

パイプハウスの設置を、きのこ用2棟、野菜用で7棟計画しているようだが、既存のハウスは有効に活用し、収益を上げているようにみえない。この取り組みに対してどういった指導をしているのか教えて頂きたい。

(町長) デマンドバスについては、これまでの町民バスの運行はスクールバスでカバーしていた部分もあったが、今後スクールバスの台数も12台に増えることから町民専用バスを用意しなければならなくなった。デマンドバスを7台にすると相対経費で見れば1千万ほど増えるが、予約のあった箇所だけを効率良く走ようになるため、この方が経費削減になるのではと考えている。集落説明会でも予約の問題など今後のいろいろな課題が出てきたが、これまで乗車できなかった向原や弥平四郎などの方々には喜んでいただいております。毎日でも利用することが可能になるので、ご理解いただきたい。

活力ある地域づくり支援事業については、地域おこしや商品開発等、地域の活性化を図るための活動に対し、年間上限50万円を3年間限定で支給するものである。申請を受けた事業については審査会を行い、3年間で自立できる見込みのあるものとみなされれば、支給の対象となる。

パイプハウスの活用の実態については、町の助成を受けながらも季節毎に活動しているところ、冬期間は活動していないところ、あるいは1年中何もしていないと思われるところもある。町としては収益を上げてもらうことが目的であり、栽培方法についての指導もしている。設置の要望に沿って予算を組み、増設しているが、来年度からは明らかに使われていないハウスについては、別の方に回すことも検討している。

(意見) 毎年町から、ある町道の一部の除雪のために除雪機を借りているが、町道だけでなく、高齢者や一人暮らしで除雪作業が厳しい世帯の玄関から道路までの除雪もしたい。町で負担している燃料や部品等の経費がこれまで以上にかかるが、許可してもらえらるだろうか。

(町長) 除雪のための経費はやむを得ない。気にせず利用して欲しい。

(意見) 奥川地区は町の中でも限界集落の多い地区である。平成19年度には国の地域活性化推進事業により、福大生と地域の歴史にまつわる本を作成したり、岩屋虚空蔵尊までのアップダウンの激しい道と一緒に整備したりと、過疎化が進まぬよう活動してきたが、2年後には事業仕分けにより終了してしまった。その後道路や水路の管理を自分たちで行っているが、高齢者も増え、負担が大きくなっている。今後、町の支援と住民の熱意がなければ地域おこしや集落の維持管理は不可能に思う。

(町長) 町としてもできる限りの支援を行うが、すべての事業を行うには町も集落も限界がある。これからは、集落でできる事業を選択し、存続に努めることが必要だと思う。また、支援できるボランティア団体等を募集するなど、外部の手を借りるのも一つの方法である。上谷地区では宮城教育大学の学生と共に天空の里づくりに取り組んでいる。お盆には身近な若い人を呼び、プールを作ったり魚とりをしたりと、ほんの

数日ではあるがたくさんの若者や子どもたちが毎年訪れるようになった。出戸地区も豊かな環境を利用し、地域活性化事業を継続していただきたい。高齢者だけで対応しきれない部分については集落支援員に相談し、町と連携を図りながら災害時や道路・水路の維持管理を行っていただきたい。

(意見) 3月で閉校する奥川小学校の利活用だが、奥川支所、診療所、院外薬局を早急に移転してほしい。

(町長) 即検討したい課題である。閉校後調査を行い、改修の必要がなければすぐにも移転実施に取り組めるが、改修が必要な場合、まず予算を立てるところから始まるので、時間がかかることをご理解いただきたい。